

仮想的有能感がネットコミュニケーションでの 攻撃行動に与える影響

九野 功平

近年になって、インターネットでの誹謗中傷などの攻撃的発言がニュースなどで取り上げられることが増えてきた。ニュースで取り上げられた攻撃的発言などには他者を軽視した内容が含まれていた。このインターネット上の攻撃行動には他者軽視傾向を測る仮想的有能感が影響しているのではないかと考えた。しかし、先行研究から仮想的有能感がインターネット上の攻撃行動にのみ影響しているとは考えにくい。また、オンライン上でビデオカメラを通じた口頭によるコミュニケーションも増えてきているため、オンライン上で、テキストベースと口頭によるコミュニケーションの比較をすることにも意義があると考えた。そこで本研究は仮想的有能感の高さによる攻撃行動のしやすさと、コミュニケーション方法の違いによって仮想的有能感が攻撃行動に与える影響の違いを検証することを目的とした。

先行研究から、次の 2 つの仮説—①仮想的有能感が高い人は、コミュニケーション相手に対して攻撃行動を行いやすくなる、②テキストベースでのコミュニケーションとビデオカメラを通じた口頭のコミュニケーションを比較した際、仮想的有能感が高い人は口頭条件に比べてテキストベース条件でコミュニケーション相手に対してより攻撃行動を行いやすくなるが、仮想的有能感が低い人は条件間で差がない—を立てた。

この仮説を検証するため、参加者と、参加者を模した実験者が議論を行うオンライン実験を実施した。その結果、仮説 1, 2 ともに支持されなかった。仮想的有能感の高さは攻撃行動に関連していないこと、コミュニケーションの違いによって仮想的有能感が高い人の攻撃行動のしやすさは変わらないことが示された。

今後の研究では従属変数の測定方法の妥当性や、コミュニケーション条件間での会話量の一致なども考慮して、より正確に仮想的有能感がインターネット上での攻撃行動に与える影響を検討していくことが望ましい。(社会心理学)